

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

2021年4月25日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「栄光の冠をいただく」

—聖徒の群れ—

テキスト：第1 ペテロの手紙5章1～4節

はじめに

- ・この手紙が書かれた時期は、たぶん紀元60年代の前半に書かれたと言われています。今から約1960年前のことです。その頃のエルサレムはどのような状態であったでしょうか。
 - ・エルサレム教会の柱であったイエスの弟ヤコブは殺害され(AD62年)、エルサレム教会は、まもなく使命を終えたかのように姿を消します。当時のユダヤには総督(AD62～66)はいたものの、無法状態で国内には泥棒が横行していたと言われます。
 - ・ローマは皇帝ネロの統治下(AD54～68)にあり、クリスチャンに対して徐々に迫害の手を伸ばしていました。この手紙が書かれた時には、パウロはすでに殉教の死を遂げていたと思われま
- す。
- ・このような時代背景で、ペテロはアジアのクリスチャンたちに対して、最後までキリストを信じ、忠実に、雄々しく生きるよう勧め、励ましました。
- その意味で、この手紙は今日のような平和な時代に読んでも、理解することが難しいかもしれません。しかし、目前に迫る厳しい試練の訪れを覚えて書かれたこの手紙に、私たちは「信仰の本質」を心の中にしっかり留めておく必要があります。
- ・5:1 私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じ長老の一人として、キリストの苦難の証人、やがて現される栄光にあずかる者として勧めます。
- 12弟子の1人であったペテロが、後輩の長老たちに勧めた言葉です。
- ペテロは自分の命は限られているが、アジアの教会で立てられた長老(教会指導者)たちに、「神の羊の群れを牧しなさい」(5:2)と勧めました。
- ・その頃はまだ牧師は立てられていなかったようです。長老、あるいは監督は、教会のリーダーであり責任者でした。今で言えば牧師、宣教師、伝道師をはじめとする教職者です。つまり教会に仕える人々です。イエス・キリストは羊の大牧者であり、教会のリーダーたちは小牧者であります。
 - ・今日、私たちは教会と教会に仕える牧者について考えてみたいと思います。

大切なポイント

1. 教会における牧者の働き

5:2 あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを牧しなさい。

- ・聖書では、教職やリーダーたちの働きが、羊飼いになぞらえています。羊飼いの働きは、遊牧民の世界ではだれでも知っていることですから、ペテロは何も書いていません。しかし、羊飼

いの働きから見てみましょう。4点。

1) 「養う」

- ・私たち教職にとって重要な務めは、毎聖日礼拝で「神のみことば」を正しく説き、兄弟姉妹を霊的に「養う」ことです。そのため、誰よりも自分自身が聖書を学ばなければなりません。
- ・神が私たちに何をお語りくださっているか、神がどのようなお方か、私たちに対する神のご計画を知らなければなりません。同時に、兄弟姉妹の生活、困難、課題などを知らなければなりません。一方、この世の中の現実、人々の必要も知らなければなりません。人を知らなければ、人の必要に応えることもできないからです。

2) 「守る」

- ・次に大切な働きは、兄弟姉妹を守る働きです。イエスはご自分について次のように述べられました。ヨハネ福音書
10:11 わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。
10:12 牧者でない雇い人は、羊たちが自分のものではないので、狼が来るのを見ると、置き去りにして逃げてしまいます。それで、狼は羊たちを奪ったり散らしたりします。
10:13 彼は雇い人で、羊たちのことを心にかけていないからです。
- ・羊はしばしば危険に襲われます。野獣に襲われることもありますし、崖から落ちる危険もあります。同じように、この世の中で生きる羊（クリスチャン）にも危険があります。
- ・悪魔はクリスチャンになったばかりの若い人を狙います。まだヨチヨチ歩き
の若い時に、狙いやすからです。世の中には誘惑となるものが多々あります。霊的な戦いがあります。異端が狙うこともあります。人間関係でつまづくということもあります。牧者はこのような危険から、羊を守るところにあります。

3) 「導く」

- ・第三の働きは、羊を導くことです。
10:4 羊たちをみな外に出すと、牧者はその先頭に立って行き、羊たちはついて行きます。彼の声を知っているからです。ヨハネ
- ・群れの先頭に立つことは容易なことではありません。群れを形成する兄弟姉妹は、みな性格も異なり、背景も異なり、社会的立場も異なります。それに若者と年配者の「世代間の違い」(generation gap) もあります。

『例話』

- ・少し前になりますが、東京でカルガモ親子が道路を渡ろうとしたとき、パトカーが出て交通整理し、カルガモ親子が堂々と道路を渡り終えたという実にはほえましいニュースがありました。同じようなニュースが、ロシア、米た。
- ・私が注目したい点は、親ガモが先頭を切って歩く姿であ
子ガモがその後が続きました。親ガモは子ガモが成長す
をもって、先頭を進みます。これこそ、牧者である羊飼いに従う羊の姿ではありませんか。



ほえましいニュ
国でもありまし

ります。そして
るまでには責任

- ・牧者にはそのような務めがあります。

4) 「癒やす」

- ・そして、第四は癒す働きです。

わたしは失われたものを捜し、追いやられたものを連れ戻し、傷ついたものを介抱し、病気のことを力づける。肥えたものと強いものは根絶やしにする。わたしは正しいさばきをもって彼らを養う。 エゼキエル 34:16

私たちが住む世界は、罪によって歪みができています。そこで、様々な傷を負って人生を歩んでいます。子どもの頃、親の愛にはぐくまれて生活することに乏しかった人は、心に傷を受けることが多いものです。

- ・親の愛を知らなくして育った人は、神を信頼しきれないかも知れません。親から負の遺産を受け継いでいる人もいます。人生では病気、事故に脅かされることもあります。ある方は過去に犯した罪のため、罪責感に悩まされています。ある人が言いました。「羊の群れは、まるで傷を受けた人々の病院のようである。」と。それほど多くの方々が、何らの傷を受けているからです。
- ・牧者はそのような人々が癒されていくことを祈り、その話に耳を傾け、痛む人々に寄り添っていくことが求められます。それが教会の羊飼いの務めなのです。

* 皆さん。大きく分けて、羊飼いである牧者にはこれら4点が求められます。

ペテロは、初代教会時代、まだなんの制度もなかった時代、そして苦難と迫害があった時代に、「神の羊の群れを牧しなさい」(5:2)と勧めたのでした。そして、その勧めをさらに具体的に述べました。

2. 神の羊の群れを牧しなさい

- ・ペテロはここで「何々ではなくて、何々を」と言い回しを3回繰り返しています。これは一種の強調文と思われます。順に考えてみましょう。

1) ペテロの牧会姿勢

① 自発的に

5:2 強制されてではなく、神に従って自発的に、また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい。

- ・強制されてすることと、自発的にすることとは、大きな違いがあります。強制されてする事は、満足心はなく不満が残ります。そしてそれが続くと、今度はストレスへとなります。人によっては、切れてしまうかも知れません。もうそれ以上、耐えることができないからです。
- ・しかし自発的にすることは違います。自発的にする奉仕は疲れても、心地よい疲れです。それは会社でも教会でも同じではないでしょうか。喜んで働く人のもとに、人は集まってきます。
- ・そこで大切なことがあります。自発的に奉仕(働き)をするには、それなりの理由が必要であることです。つまりモチベーションです。会社では金銭でつながるでしょう。お金を得るとい

う動機です。しかし教会はそうではありません。教会では主への感謝が動機となるでしょう。日々、どれほど感謝の心で歩んでいるかでしょう。それが働きのモチベーションにつながるのです。

②心をこめて

- ・ 5:2 また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい。

世の中、いろいろな人がいます。いつも損得を計算する方がいます。しかしそこまでいなくても、他の人のために他人の世話をしているはずが、いつの間にか、自分の利益のため、自分の満足のために奉仕してしまうことがあります。

- ・ 主イエスご自身は自分の利益のためではなく、文字通り、私たちにいのちを与えてくださいました。私たちも奉仕をしていくとき、報いを求めず、ただ与えることを喜びとしたいと思いません。

③模範となって

5:3 割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。

- ・ 「支配」という言葉には一種の危険性があると思います。すべて自分の思い通りに人を動かそう、従わせようとするならば、それは「支配」となります。集団を率いる立場に立つなら、他の人々がついてきてくれなければ困ります。どうしたらよいでしょうか。

(1) 教会は「神の羊の群れ」ですから、そこにつながる羊は「招かれた人たち」である意識です。私の教会 or 私の群れではなく、神が自分に託された羊の群れであるというところに、繰り返し帰っていく必要があります。神ご自身が牧者であり、私は神ご自身の下で働く小牧者であるという自覚を持つことです。

(2) 「群れの模範」になることです。

リーダーは、「こうして欲しいな」と思うことを、自分自身が行うことです。こうなって欲しいという者に、自分自身がなることです。

- * このように、①群れを養い、②守り、③癒す働きを、④自発的に、心を込めて自らが模範となって実行していくならば、神ご自身が報いてくださいます。そして栄光の冠という「ご褒美」が待っています。

5:4 そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠をいただくこととなります。

なんという幸いではありませんか。

2) 万人祭司の教会 (北浜チャーチ)

- ・ 多くの方々が今日のメッセージは、教会リーダーである牧師に向けてのメッセージであると思われるでしょう。確かにそうです。しかし、16世紀によって始まった宗教改革が、主張してきたことは「万人祭司制」ということでした。
- ・ 旧約聖書時代は、12部族のレビ族だけが、中でも選ばれた祭司だけが神の前に出ることができました。それも数々の規定を満たして可能なことでした。

・しかし宗教改革によって教えられたことは、今や大祭司イエス・キリストがご自分のからだを永遠の犠牲として携えて、神の前に出てくださいました。

イエスが十字架にかかれ、お死になられた時、エルサレム神殿の至聖所へ入る幕が上から下まで、真二つに裂けました。それによって、大祭司が年に一度犠牲の動物を屠って至聖所へ入ることが許された特権が、イエス・キリストを信じる全て（万人）の人々に与えられるようになりました。これが万人祭司制と呼ばれるものでした。

・ヘブル人への手紙 10 章

10:19 こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所 に入るができます。

10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。

10:21 また私たちには、神の家を治める、この偉大な祭司がおられるのですから、

10:22 心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。

10:23 約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。

・皆さん。このように、みことばを受け止めていきますと、単に教会リーダーの牧師だけの特権ではなく、すべての兄弟姉妹は祭司であることがわかります。

その意味で、私たち各自が祭司であるならば、互いに牧会することを覚えなければなりません。私はこれを「相互牧会」と呼んでいます。

・振り返るならば、私たちは信仰の先輩によって養われ、育てられてきたのではないのでしょうか。その恵みに気づいた者は、自分も人の世話（①群れを養い、②守り、③癒す働きを、④自発的に）をする人になっていきます。

・そして、人の世話をすることによって、自分も育てられます。それは親が子によって育てられるのと同じです。このように教会は、お互いに養われ、牧会される者の群れです。それは**相互牧会**です。

・私たちは祭司としての使命を自覚する度合いに応じて、人々のために祈るようになります。人々に仕えるようになります。その自覚は、自分がどれほど神に愛され、恵みにあずかっているかを知る度合いによります。あるいは又、自分が神の愛と恵みに値しないことを知る度合いによります。またそのような霊的環境の中で、信仰がはぐくまれる度合いによります。

・私は指導者が一人で教会を牧会するというのではなく、互いに牧会する相互牧会こそ、教会の自然の姿ではないかと教えられています。**相互牧会**のために、お互いが目指すべきことは、聖霊が自由にお働きくださることです。

主のみことばに喜んで従おうという気持ちにされることです。皆が素直にされる環境であります。

・そのような霊的空気の中で、良い信仰の先輩・後輩の関係が出来上がるのではないのでしょうか。後輩は先輩を見習って成長します。先輩は後輩が育つことに生きがいを感じるのです。そしてともに主にあって成長していきます。そのような人たちに、栄光の冠が備えられているのです。

5:4 そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠をいただく

ことになります。

キリスト者はなんといいう幸いなものでしょうか。それが相互牧会です。

ま と め

主 題：「栄光の冠をいただく」

—聖徒の群れ—

- ・今日も私たちは主から教えられました。ペテロは初代教会時代、困難と迫害の下にありましたが、キリストの群れを牧する幸いを説きました。その道は、栄光の冠を受ける**相互牧会**であります。
- ・私たちは困難な中に置かれても、同じ群れにつながる兄弟姉妹として**相互牧会**し、進みましょう。それは栄光の冠を受ける聖徒の道です。やがて大牧者であるイエス・キリストが現れます。その時まで、私たちは小牧者の働きをしていこうではありませんか。

「神の羊の群れを牧しなさい」(5:2)

* God bless you!